

合掌村 旧大戸家住宅

旧大戸家住宅は合掌村で最大の家屋で、面積は約 250 平方メートルあります。1963 年に白川郷から現在の場所に移築されたこの家屋は、釘を使わずにマンサク（ネソ）と縄で建てられています。長さ 12.5 メートルのこの家屋では、来訪者は 19 世紀の岐阜県で村人がどのような生活をしていたのかを垣間見ることができます。この家屋は 1956 年に重要有形民俗文化財に指定されました。

高さ 13 メートルのこの家屋は、合掌造りにしては珍しく 4 階建てです。多くの合掌造りの家は 2 階建てか 3 階建てです。屋根は藁葺きで急角度の合掌造りの屋根となっています。岐阜県では冬に多くの雪が降り、屋根に角度をつけることで、屋根に雪が積もりすぎて家屋が崩壊することを防いでいます。

旧大戸家住宅の 1 階は日常生活の中心舞台となっていました。1 階には地面に掘った暖炉（囲炉裏）、台所、食堂、先祖に祈りを捧げるための仏壇、及び馬小屋があります。急で梯子のような階段が各階をつないでいます。この家屋の 2 階以上は、養蚕と絹糸の生産に使われていました。